

# ひびきジャーナル



編集／発行 特定非営利活動法人 純正律音楽研究会

〒106-0031東京都港区西麻布2-9-2 Tel 03-3407-3726 Fax 03-3797-5640 e-mail:info@pure-music.ne.jp

## 純正律音楽は高齢化社会の福音となるか

巻頭対談

介護老人保健施設「はまなす」

施設長 福田六花先生

(医学博士 作曲家

純正律音楽研究会理事)

介護員 木下裕孝さん

純正律音楽研究会代表 玉木宏樹

(作曲家 ヴァイオリン奏者)

純正律音楽の新たな可能性として、介護老人保健施設(以下、老健施設)痴呆専門棟で純正律音楽を流すことにより徘徊が減ったことなど、かつても会報(二〇〇四年三月十五日発行第十号「老人と純正律」)で紹介しましたが、昨年十一月老健施設「はまなす」がこの純正律音楽の効果について、全国介護老人保健施設香川大会にて発表しました。施設長の福田六花先生、発表者の介護員木下裕孝さんから、この発表について説明を受け(発表内容については三頁参照)、純正律音楽について現場の実感などを詳細に伺いました。

発表の反響

玉木 全国介護老人保健施設香川大会ってどういうものなの。

福田 老健施設の学会です。社団法人全国老人保健協会(以下、全老健)の主催で去年の十一月十日から十二日、香川県高松市で開催されました。全老健は、老健施設の全国組織

で、施設職員向けの教育研修、調査研究、広報などを実施しています。全国大会は、年一回開催され、今回で十五回目。日本中の老健施設(約三千施設)関係者が集まって、各施設の研究成果を発表したり、それを見学したり、勉強する場です。

木下 発表は老健施設にかかわる様々なジャンルのものがあり、二十以上の会場で約八五〇件にのぼります。発表形式も様々ですが、私達はポスター発表で、発表内容のポスターを午前中から張り出し、純正律音楽を流しながら待機し、興味を持つ見学者に説明したり、質問を受けたり、資料やサンプルCD(※純正律音楽研究会からサンプル用として「純正律への誘い」を寄贈)を渡したりしました。興味を持つ見学者の方は多かったですよ。

福田 純正律のことを知っている人もひとりいましたよ。ワークショップが受けられるのか、など熱心に質問されました。午後には集まった二百名程の見学者を前に説明六分質問二分計八分の口頭発表をしました。

玉木 どういう質問がありましたか。厳しいつつこみはなかった?

木下 特に困るような質問はなかったです。皆さん純正律をそもそも知らないから、「そんないいものがあるならうちでもかけてみたい」という反応が一般的でした。質問もだ

いた理想定問答のとおりでした。「純正律音楽」「倍音成分」などの言葉をもっとわかりやすく説明してほしい、音量はどのくらいがよいのか?比較で演歌かけたのはどのくらいか?などです。

純正律は壁紙音楽

福田 演歌をかけたのは五日だけなんだけど、演歌にしたら、わざわざし始めたから、続けられなかったんですよ。演歌や民謡は、一緒になって歌ったり、興奮しちゃうみたい。昼間に聴くのはいいんだけど。

玉木 好きだから効果的というわけでもないんだよね。

福田 そう。昔から馴染んでいるからいいっていうわけでもない。そういうのだと気持ち盛り上がっちゃうからね。逆にはじめて聴



介護老人保健施設「はまなす」会議室にて  
左から福田六花氏、木下裕孝氏、玉木宏樹

いた音楽でも癒される。

玉木 僕の作曲している純正律音楽はジャンルに属さないものだからね。音楽の固定概念に属さないから、それがひとつの強みなのかなあ。

福田 今のところ嫌だっという人はいないし、受け口の幅が広いんですよね。年代を選ばないところがある。

玉木 聴いている方が「もういちど聴きたい！」と自分からいうことはあるの？

木下 それはいいですね。音をあまり大きくせず、環境のひとつとして純正律が流れているような状況ですから。

玉木 壁紙音楽みたいなものなんだね。

木下 そう。この前夜勤の時に気が付いたんですけど、CDをかけていたり、テレビがついていたりすると、いつも「もったいない」ってコンセントを抜きに来る方がいるんですね。でも、純正律音楽をかけているときだけ、抜かなかったんですよ！

玉木 不思議だね。音楽がかかっている印象がないんだろ？意識しないように流すのがいいんだね。音楽を効果があるからってオーディオの前に座らせて「聴け！」というのは、拷問だもんね。

### 純正律で夜眠る生活

玉木 徘徊・不穏とあるけど、徘徊はわかるけど、不穏ってどんな

行動？

木下 大声を出したり、暴力的になったり、泣いたり、わめいたりします。「家に帰りたい」「おなかすいた！」などと行って、走り回ったり、泣いたり。原因のわからないことで叫び出したり。そして周りの人を片っ端から起こして回ったりします。ひとりが不穏行動を起こすと、周りも連動してしまします。

福田 一晩中それが続くんですよ。そして昼間寝てまた夜不穏行動を起こしてしまう。

玉木 それはたいへんだね。不穏行動が純正律でどのくらいおさまるの？

木下 発表では「今までは二、三人だったが、現在では時々みられる程度」というように人数でデータを示しました。純正律をかけないときは、多いときで七名が徘徊不穏行動を起こしたこともありました。転倒があつて、たいへんでした。

福田 夜寝てもらおう工夫が大事なんですよ。その工夫として、純正律音楽と、夜間入浴があります。入浴は人手がいる仕事なので屋間にやる施設が多いけど、夜お風呂に入ると、ずっと眠れるものです。睡眠薬、安定剤など、薬を飲ませる施設もあるけど、そうすると昼も眠くなったり、元気がなくなつて、危険もないけど、お年寄りにとってはつまらないと思うんですよ。だから、薬は原則使

いません。夜間入浴と純正律音楽の二本立て。それでほとんどの人が夜に寝て、昼間も元気にしゃきつとしていきます。口もきけなかつた人が話し始めたこともあります。

### 高齢化社会の福音

福田 今回も純正律音楽の効果について知ってもらうために発表したんですけど、どの施設でも困っているだろうから、使つてほしいと思います。夜勤二人で、四十人の老人をみるのに、一人不穏行動を起こすと、残り三十九人をひとりで全部みないといけなくなる。それはたいへんなことです。でも人手も予算もない中でも、純正律音楽があればなんとかなるんですよ。全国の施設でかけてもらうというのがいちばんいいと思います。

玉木 音楽は副作用ないしね。

福田 人によって効くか効かないかはあるかもしれないけど、今のところ拒否する人はいないしね。まさしく二十一世紀高齢化社会の福音になると思います。

木下 どの施設でも使つたほうがいいと思います。私がおまじかの施設で働くことになつても純正律音楽を使います。使わないとやっていけません。

玉木 介護をしていらつしやる方にも効果があるっていうのがいいことだね。普通に働くだけでもたいへんなのに、不穏行動など

があるともっとたいへんだものね。老人に効果があるだけでなく、介護する人に対する癒しの効果もある。それを広く訴えていきたいね。

\* \* \*

お話を伺った日は「はまなす」の忘年会。お昼過ぎ、お寿司やラーメンなどで楽しくお食事される皆さんの前で玉木のヴァイオリンで「悲しい酒」「この世の花」「ちようちよう」「ロングロングアゴー」「むすんでひらいて」「家路」「荒野の果てに」「きよしこの夜」を演奏。最後はお寿司を握り終えた福田先生もギターをかかえて加わり、みんなでお正月を歌いました。



「はまなす」の忘年会でヴァイオリン演奏

での発表内容は次のとおりです。

純正律音楽の効果

純正律音楽で癒された  
所在県・市町村名

山梨県南都留郡河口湖畔  
施設名

介護老人保健施設はまなす  
発表者職種・氏名

介護員 木下 裕孝  
共同研究者 施設長 福田六

花・看護師長 門馬恵子・作業療  
法士 神藤理美子・痴呆専門棟全

職員 玉木 宏樹（作曲家・バイ  
オリニスト）

【はじめに】  
当施設の痴呆専門棟では、夕食

前に利用者とテレビを一緒に見  
たり、会話を楽しむなどの時間と

して当でていたが、雰囲気を変え  
てみるのも良いのではないかと

思い、「音楽」に視点を当ててみ  
た。そんなおり、バイオリニスト

の玉木宏樹氏による施設内での  
生演奏をして

頂く機会があ  
った。玉木氏の

演奏する純正  
律音楽に多く

の利用者が目  
を細めて聞き

惚れ癒されて  
いた。そこで、

当施設では純  
正律を日常生活

活に取り入れ  
ていく事にし

全国の老健施設関係者が集う大会会場

た。純正律とは、以下に述べてい  
る通りである。

ピアノを始めとして、現在日本  
で演奏されている音楽でCD、T

V、ラジオなどで聞ける音楽のほ  
とんどは平均律という一オクタ

ーヴを単純に十二等分した音階  
で奏でられている。

平均律は、非常に便利であるが  
厳密なレベルでの美しい響きを

犠牲にしている。それに対して純  
正律という音階は、倍音成分まで

含めて正確に調和した音階で、コ  
ーラス、バイオリンなど自分で音

程をとれる音楽により成立して  
いる。

【目的】  
①純正律音楽を聴き癒された  
時間を過ごす。

②純正律音楽を流し夜間の徘徊  
・不穏を減らし、睡眠への導入

を促す。  
【方法】

痴呆棟において純正律音楽のC  
Dを、夕食前から消灯の時間まで、

なんとなく聞こえてくる位の音  
量で流す。

演歌を流した場合や純正律音  
楽を流した場合の夜間の徘徊者

数、不穏者数を調べ導入以前の状  
態と比較する。

【結果】  
今まで四ヶ月程純正律音楽を

流す事を実施しているが、回数を  
重ねるごとに利用者の夜間の徘徊

・不穏、暴言が減ってきた。結  
果は以下の通りである。

① 夕食後、口腔ケアの拒否が目  
立つ利用者が、純正律音楽を聞く  
ようになってから次第に表情が

豊かになり、時折笑顔も見られる  
ようになっていき口腔ケアの拒

否もなくなってきた。  
② 暴言の多い利用者も、夜間の

暴言が徐々に減少し、導入二ヶ月  
後には夜間の暴言がほとんど見

られなくなった。現在、日中での  
暴言も徐々に減少し、笑顔も見ら

れるようになり職員や利用者とな  
り楽しく会話されているところ

ををよく見かけるようになった。  
③ 夜間の徘徊者数は、開始当初

三〜四名の利用者が毎晩のよう  
に徘徊をしていたが、現在では一

〜二名程度までに減少している。  
④ 夜間の不穏者数は、開始当初

は二〜三名であったが、現在では  
時々みられる程度になった。

⑤ 純正律音楽の代わりに高齢者  
に馴染みのある演歌を流してみ

たところ、夜間の徘徊・不穏者数  
は減少しなかった。

【まとめ】  
純正律音楽によって目的であつ

た夜間の徘徊・不穏は確実に減少  
の効果が現れている。その結果、

職員も利用者への対応がスムー  
ズに行なえ、ゆとりがでてきた。

純正律音楽を聞きながら仕事を  
するようになった職員からはス

トレスやイライラがかなり減つ  
たとの声も聞かれた。  
痴呆専門棟において、夜間の徘徊

問題である。徘徊は、転倒の危険  
がつきまとい、強い不穏には、眠  
剤が使われる事もしばしばであ  
るが、当施設では純正律音楽を流  
したり、夜入浴して頂く事により  
眠剤等は殆ど使用していない。こ  
れからも利用者がゆったり安心  
した生活が出来る様、純正律音楽  
を活用していきたい。今後も玉木  
宏樹氏の協力の下、施設全体がよ  
りよい環境になるよう継続的に  
色々な曲を流していきたいと思  
う。以上

\* \* \*

発表後、純正律音楽研究会宛に、  
介護保健施設の方から数件問い  
合わせがありました。今後効果な  
どについてご報告いたたく予定  
です。また更に老人介護関連の団  
体を通じての情報交換を進めて  
いきたいと考えています。会員の  
皆様からのご意見やご提案もお  
待ちしております。

\*「痴呆」という言葉には侮蔑（ぶべつ）  
的意味合いが強く、必要なケアや治療の  
妨げになったり、予防対策から高齢者を  
遠ざけているケースがあるとして、厚生  
省が呼称見直しの検討会を設置。国民か  
らの意見も募集して検討した結果、今年  
度から「認知症」と用語を改めること  
になりました。今回の学会発表が昨年のも  
のであり、また現時点では「認知症」と  
言う言葉が広く浸透していません。こ  
もあり、「痴呆」と言う言葉を使用してお  
ります。

天国的純正律音楽入門  
第十二回

ミーントーン・  
ハープの魅力

純正律音楽研究会代表  
作曲家・ヴァイオリン奏者

玉木宏樹



奥深いハープの世界

前回の会報の冒頭対談は、ハー  
プシヨップをやっていたらっしや  
る高田さんをお願いした。あの  
対談を読んで頂ければ分ると思  
うが、ハープの世界って結構奥  
が深い。あの対談で分りにくい  
と言われた箇所があったので、  
少し補足しておこう。それは脚  
ペダルのダブルアクションのこ  
とである。ハープの基本調、つ  
まりペダルを使わない生の音階  
は、変ハ長調である。そして七  
つの「ドレミファソラシ」にす

べてペダルが対応しており、そ  
のペダルをひとつ踏むとすべて  
の高さの各音が半音高くなる。  
そして七つのペダルを全部ひと  
つ踏んだ状態にすると、ハ長調  
になる。同じく全部をもうひと  
つ踏むと、嬰ハ長調(変ニ長調)  
になる。この脚ペダルは二段階  
踏むようになっており、これを  
ダブルアクションという。踏ま  
ない状態からひとつ踏むと半音  
上がり、もうひとつ踏むともう  
半音上がる。ハープの命はグリ  
ッサンドなのだけど、どうい  
うことかという、例えばハ長調  
のトニック、Cのコードをグリ  
ッサンド(早く言えばかきまぜ  
ること)にする時、「ドレミファ  
ソラシ」の七音のうち、「ファ」  
をペダルなしの状態にすると  
「ファ」のフラット(b)にな  
り、「ミ」と同じ音になる。もう  
ひとつ「シ」を二段階踏むと「ド」  
と同じ音になる。そして下から  
弾くと、「ドレミミソラド」とな  
り、かきまぜると「ドレミソラ  
ド」となると、ちゃんとトニッ  
ク、Cのコードになる。この際  
のレとラはCのコード内の音で  
あり、コード名でいうと  
C<sup>6</sup>となる。もうひとつG<sup>7</sup>という

属七のコードの場合「ド」をノ  
ンペダルで半音下げ、「ミ」は二  
段階踏んで、「ミ」のシャープ(#)  
つまり「ファ」と同じ音にする。  
そして下から弾くと「シレファ  
ファソラシ」となり、ちゃんと  
属和音になる。「ラ」の音は九度  
の音だけど、ドミナントとして  
全く問題ないどころか、九度で  
いい味が出せるようになる。こ  
れを盛大にかきまぜれば、オー  
ケストラの中で燦然と光を放つ  
華麗な音となる。こういう異名  
同音の効果はめざましいが、ま  
さしく平均律の賜である。エラ  
ールがこのダブルアクションを  
発表したのが一八一年で、こ  
の頃からそろそろ平均律の存在  
も実用の範囲内となりつつあ  
った。このダブルアクションの発  
明以前のハープは、シングルア  
クションで半音はひとつ分しか  
移動できなかった。この制約の  
中でのハープの調律は、平均律  
ではなく、ミーントーン(中全  
音律)だったはず。

ミーントーンハープの再発見

対談の中でも近々調律のちが  
うハープをお聴かせできるかも  
しれないという話で締めくくっ

たが、その後十二月の半ばに電  
話があり「アイリッシュハープ  
をミーントーンで調律してみた  
のでよかったですらどうぞ」とい  
うお誘いに乗り、十二月二十一日  
に高田さんのハープサロンを訪  
れた。演奏してくれたのは高田  
さんのお嬢さん、高木真理子さ  
ん。ミーントーン時代にふさわ  
しい古典時代の小曲を何曲か弾  
いてももらった。第一印象として  
は、とても時代の分る典雅な響  
き。高木さんに「どう?」と訊  
いたが、「確かに違いはわかるけ  
ど、どこがと言われても」とい  
う全うな答え。でも私はとても  
いい感じを持ったので、「近々モ  
ーツァルトの小曲を編曲するの  
で試しにヴァイオリンとハープ



ミーントーンハープを演奏する高木真理子さん



高田ハープサロンでのテスト録音も順調

で録音しましょう。」と提案。高田さんはデジタル録音の機材を持っていてるので、ここで録音してみたら、というので、それもOK、そのかわり録音のプロのアシスタントを連れてくるということにして退散。そして正月を挟んでモーツアルトの「春への憧れ」と「トルコマーチ付きのピアノソナタ1楽章」の二曲をかなり自由に編曲して一月二十一日にもういちど高田さんの所を訪れ、試し録音をしてきた。結果は私の予想通り、ミーントーンを活かした編曲と演奏をすれば、モーツアルトのすばらしさが違った面で見ええるということが確認できた。これで「純

正律でモーツアルトを」というCDのおよその方針が見えてきた。

### ミーントーンの解説

ところでミーントーンと言われても何のことやらわからない人も多いと思われるので、その説明を少ししよう。ミーントーンは中全音律と訳され、意味通りでは全音はすべて大全音と小全音の中間になり、純正律上のややよしさからは少し解放されるが、純正律の最大の特長である長三度、つまりドとミが天国的に協和する。その分、完全五度はやや狭くなるが、それほど汚くはない。この調律の最大の長所は長調の場合、ほとんどの響きが純正律に近くなり、透明度がすばらしい。モーツアルトはヘンデルの影響を受けて、ミーントーンを非常に愛好した。ヘンデルと同時代のバッハはミーントーンよりもヴェルクマイスターで作曲している。ミーントーンはしかしいいことばかりではない。その最大欠点は短調が汚く、あまり使い物にならない。そのせいでモーツアルトには短調の曲が極端に少ない。そ

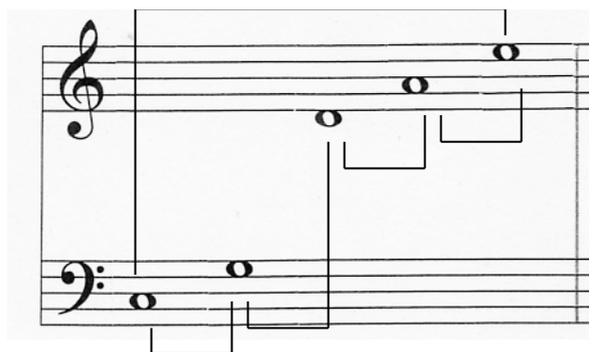
してもうひとつは転調の範囲が限られ、六つの調までいいが、それ以外は急に世界が崩壊するような響きになる。そこで私はモーツアルトの曲の中でもドッペルドミナント以外出てこない曲を編曲した。またミーントーンは完全五度が狭くなるので、ヴァイオリンとは微妙な関係になる。また、「ミ」と「ファ」、「シ」と「ド」の半音の間がかなり広い。そういうことを意識して演奏すると、不思議とモーツアルト時代のヴァイオリン奏きの感覚が分ったような気分になる。ここでミーントーンの調律の基本的な考え方を示しておこう(譜例)。

いづれ今年中には「純正律でモーツアルトを」というCDを作るつもりなので、多少のご期待を頂きたい。

こうして玉木はヴァイオリンとミーントーンハープを中心とした「純正律でモーツアルトを」のCD制作に邁進。次の会報(五月上旬予定)での続報をお楽しみに!

また三月十二日(土)にミーントーンハープのお披露目イベ

### 【譜例】



# いちめんの菜の花コンサート今年も開催!

二〇〇五年四月十四日(木) 一九時開演 一八時三〇分開場

東京オペラシティリサイタルホール(東京都新宿区)

主催 純正律音楽研究会 共催 現代邦楽研究所

## ■菜の花コンサートについて

純正律音楽研究会代表

玉木宏樹

昨年の四月の菜の花コンサート、好評裏で終わり、色々な発見もありました。そこで今年も第二回の「菜の花コンサート」を純正律音楽研究会で主催します。企画は代表の私玉木宏樹と理事の西潟昭子です。去年のコンサートのテーマは「純正ピタゴラス音律」でした。ここではあまり詳しくピタゴラス音律のことは書きませんが、結論だけ言うと、邦楽の音律とヴァイオリンの音律は全く同じピタゴラス音律です。今回演奏する私の曲「独奏ヴァイオリンと箏群のためのダンス・クロノス」は全くその共通性に乗った曲です。去年の場合、すべて私の曲でしたが、今年は邦楽の新境地を拓くべく、私のほか三人の作品を紹介することになりました。まず、サウンドとして非常に純正律に近い作品の多い吉松隆氏の曲、私と長年温かい交遊を続けていて、NHKの仕事の多い丸山和範氏の新曲、そして私の主治医であり、作曲も歌も堪能なシンガーソングライター福田六花氏の新曲。たいへんユニークな人材と幅広い音楽性が繰り広げる、第二回いちめんの菜の花コンサート。皆様のご支援、よろしくお願い致します。

## ■現代邦楽研究所(十周年)の仲間たち

現代邦楽研究所代表

純正律音楽研究会理事

西潟昭子

一九九五年、現代邦楽研究所は邦楽の新しい教育機関として設立されました。それまで邦楽は、厳然とした縦割り社会で、家元制度のもとに師匠と弟子という関係において、伝統を育くみ、教育されて来ました。しかし今日の社会状況の中で、特に若者には、その環境は馴染み得ない、過酷な状況となりました。もっと気楽に楽しく、また何よりも自由で、しかも広い視野の元に、邦楽のあり方を考えられる邦楽人を養成出来ないだろうか、と考えての開講でした。実技レッスンは経験者も非経験者もいっしょの合奏形態で、そのほかに年間三十以上のさまざまな講座が組まれました。演奏家、作曲家、研究者など五十名に上る講師が、ころよく授業を受け持って下さいました。それから十年、多くの卒業生はそれぞれの立場で、現邦研で学んだことをいかし、活躍しております。

菜の花コンサートに出演の若手演奏家もみな卒業生です。それぞれタイプも個性も違いますが、

音楽に対する姿勢や、邦楽人としての誇りは誰にも負けないでしょう。次世代を担う演奏家として、大いに活躍してもらいたいと、期待しております。

また、彼らを育ててきたのは、日本を代表する箏の演奏家で、私がかつとも信頼をし、頼りにしているのが福永千恵子さんであり、石垣清美さんなのです。千恵子さんは一九七九年のパンムジーク演奏コンクールで一位を分け合って(賞金も二十万の半分十五万円しかもらえなかったけど...)。以来の親友。箏美人と言われ、その容姿とともども箏の音色が素晴らしい美しいのです。清美さんとは、ご主人の征山氏(尺八の名手、残念ながら三年前亡くなられました)ともども、現邦研の開講当時から助けていただき、その十七絃の音色は誰にも及ばない、奥深い響きの美しい音色で魅力があります。

今度の「いちめんの菜の花」コンサートVOL.2では、丸山和範氏の新作をお二人と共演できるので、今から楽しみで、新作の出来上がりを目を長くして待っているところです。それから玉木氏の主治医でシンガーソングライターとして有名な福田六花氏も若手のために新曲を書いて下さいます。バラエティ豊になりそうに楽しみしています。

## 「いちめんの菜の花」

コンサートVOL.2

純正律音楽研究会正会員割引  
三千円(一般 四千円)  
お申し込み純正律音楽研究会  
電話 03-3407-3726  
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■西潟昭子インフォメーション  
\*現代邦楽研究所主催・古典作品演奏会  
二月二十七日(日) 紀尾井小ホール

\*福永千恵子ソロリサイタル  
三月十四日(月) オペラシティ・リサイタルホール

\*現代邦楽研究所十周年記念コンサート  
三月二十六日(土) 芝・ABC会館ホール



平均律の普及の  
思想的背景について(1)

純正律音楽研究会事務局長

黒木明興

今、何故純正律なのか？それはただ単に綺麗だからというわけではない。純正律が綺麗なのは昔から分かり切っていたことであり、にもかかわらずそれが使われていないのにはそれなりの理由がある。それをきちんと把握しておかなければ、「今、何故純正律なのか？」への間は永遠に得られはしないだろ

う。と同時にこの問題を考えるにあたっては、何故平均律が広まったのか？という問を考えねばならない。純正律が綺麗だ、というのと同様に、平均律では綺麗にハモらない、という事実は当然のように熟知されていたことなのだ。にもかかわらず、何故平均律が十九世紀以降世界を席巻したのか？もちろん、現代の産業社会にとって、楽器と音楽の大量生産を可能にする平均律は確かに好ましいものであったのだろう。だが、事態はそれほど単純ではない。

率直に言えば、平均律に対する「信仰」があったのである。この整律が研究され、追求されてきたのは、ただ単に儲かる儲からないといった経済的な理由だけではない。それにもまして、この調律法こそが、紛れもなく、彼等の理想の世界を具現化するものと信じられてきたからに他ならない。キリスト教が、自然科学の抑圧者である当時にそれを育んだ土壌でもある、ということとは科学史の常識と言っても良い。そして音楽が伝統的に科学の重要な分野であったことを考えれば、平均律の発展にも彼等の宗教心が重要な役割を果たしていたことがわかるだろう。というわけで、平均律とそれを支えた思想の歴史的遍歴を追ってみたいと思う。

まず始めにバッハの『平均律クラヴィーア集 Das wohltemperierte Clavier』の問題を取り上げてみよう。

「平均律Vは誤訳だ」と言われる。純正律支持者の多くが論拠とする主張である。確かにバッハの用いていたのはヴェルクマイスター律であるという説が有力であり、だとすれば、平均律Vは正確な訳とは言えないだろう。だがしかし、これは単なる誤訳とも言えないのである。

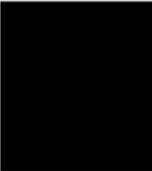
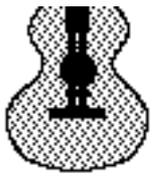
ことのおこりはヘルムホルツが一八六三年の著作『音感覚論—音楽理論のための生理学的基礎』の中でバッハが平均律を使用したと記したことに由来していると言っても良いだろう。ただしヘルムホルツはヴェルクマイスターがこの整律を開発したと言っていることに注意しておきたい。つまり彼はヴェルクマイスター律と平均律を同一視していたわけである。もしこの二つの整律が同じであれば、『平均律クラヴィーア集』は誤訳とは言えなくなる。

対して、J. M. バーバーは一九四七年の論文『バッハと整律の技』の中で、バッハの時代にも「平均なビートをもった整律」という意味の *die gleichschwebende Temperatur* という立派なドイツ語の言い方(現在の平均律と同義)があったのに、バッハは何故「良く整えられた *wohltemperiert*」という言葉を使ったのかという問から発し、ヴェルクマイスター律は現在の平均律ではなく、十二すべての調で演奏が可能である不等分律であったという論を

展開した。確かにバッハが用いていた可能性の高いヴェルクマイスター律は現在の平均律とは異なるものであり、それを指摘したバーバーの業績は無視し得ない貴重なものだと言えよう。

ところが、東川清一は二〇〇一年に発表した『古楽の音律』で、これら過去の研究を俯瞰しつつ、十二すべての調で演奏が可能なのは「ヴェルクマイスター理論にとってまったく無縁なことだったのである」と結論づけている。つまり当時ヴェルクマイスター律と平均律は同一視されていたということだ。

となれば、『平均律クラヴィーア集』は単純な誤訳ではないということになる。つまり平均律に対する信仰が「良く整えられた *wohltemperiert*」整律のことを平均律だと信じ込ませてきたというわけだ。そして、これは日本だけでなく西洋においても同様だったのである。



今回はまるで毛色の違うCDを二枚紹介しよう。そのうちの一枚は純正律とは関係ないが、音楽として水際立っており、思い付きもすばらしいので、おもしろいCDとして紹介したい。

まずは「The St Philips Boy's Choir [Angel Voices 2]」。このCDは横浜の新星堂で出逢った。その日私は水野佐知香さんの最寄り駅、東急の東白楽で水野さんに飯をご馳走になり、酒を呑みつつ、できたばかりのCD「ゆめ：くるみ割り人形ほか」をどう売っていくかという打ち合わせをしていた。水野さんはとても忙しいから、CDの売り方などという面倒臭いことを考えている暇はない。そのかわり、面と向かって話をしている、次から次へと考えが湧いてくる。そういう流れの中で、もうすぐ九時という頃に彼女、突然に「横浜の新星堂へ行こう」と言い出した。私はもう酒も入っており時間も時間だから一瞬躊躇したが、彼女は思い付いたら即行動に移る。そこで私も横浜駅まで行き、閉店間際の新星堂へ飛び込んだ。対応してくれたクラシックコーナーの責任者の鶴見さんは音楽知識が広く、純正律も何となくわかっていような雰囲気。私はわかりやすく説明しようと思っただけで、イギリスのボーイソプラノ集団リベラのことを説明し始めた。鶴見さんはすぐそういうことなのかと納得し、「ゆめ」はもちろんのこと、我々のインディーズCD「聖夜」も棚に置いてくれることになった。さらに鶴見さんからリベラになる前のCDがあるといつて紹介されたのが、「Angel Voices 2」。私は心底びっくりして、自分の不明

を恥じつつ、二枚あったCDを即購入した。そして帰って聴いて大いにびっくりしたのである。もちろん今のリベラの前身そのもので、すべてがすばらしいが、ここにお薦めするのはNO. 2の方である。実はこの中に私が愛してやまないカントループのオーヴェルニユの歌の中の「バイレロ」が収録されているのだ。「バイレロ」は結構オタクっぽいファンが多く十枚といわずもつとたくさんのCDがあるはず。「オーヴェルニユの歌」の中からではなく、単品ならサラ・ブライトマンの録音もある。しかし、みんなクラシック系のベルカント風ビブラートをかけるので、カントループのオケ編曲のクオリティの高さとともに、なんだか音楽的にとてもハイレベルになっていくような印象で、なかなか一般化は難しいだろう。しかし、このCDのボーイソプラノはもちろんノンビブラート。その冴えわたる透明さは、実に実に天国的である。しかし、このCDは一九九六年の録音、そうするとこの「バイレロ」を唄ったボーイソプラノもしつかりとヒゲを貯えて声変りして、今何をやっていんだらう。カストラートという非人道的な処置も、かくもありなん、なんだらうな。

\*\*\*

もう一枚は、ナクゾスの安売りシリーズ、なんでもありのゲテモノ？アメリカ現代曲である。作曲家はMichael Daugherty「Philadelphia Stories - UFO」というCDである。私は一時UFO狂いしていたので、まずタイトルに度肝を抜かれた。そしてその次に作曲家の名をみてまた驚いた。ナクゾスの日本語釋には

「ドアティ」と表示してあるが、これはドハティじゃないかとすぐに気がついた。ドハティは一時、「歌え、フーバーFBI長官」という曲で、現代音楽界を騒がしたことがあり、NHKFMでも何回か放送していた、その時の名はドハティ。FBIの腐敗の責任で逮捕されたフーバー元長官のネタを曲にするなんて、なんて変な奴なんだという強烈な印象が残っている。但し曲はつまらなかつたけどね。そのドハティがナクゾスに登場。まず「Philadelphia Stories」だが、この曲は夜のフィラデルフィアのライブハウスの探索で始まり、二曲目は何と「Tel Tale Harp」というハープ二台とオーケストラの曲。しかしこのタイトル、実はあのエドガー・アラン・ポーの「Tel Tale Heart」（告げ口心臓」と訳されている）というとんでもない恐怖小説のタイトルのモジリである。そして最後の曲は「ストコフスキーの為のベル」という曲で、よくわからないが、バッハの平均律曲集の冒頭がポカーンと出てきたりする。そしてもう1曲「UFO」という曲。これはニューメキシコのロズウェル事件をテーマにしている（？）、でもそんなことはどうでもよく、耳が聞こえないのに天才的打楽器奏者として大スターのエヴェリン・グレニーの演奏が、すばらしい。もうこれ以上は言うことはしない。ぜひ騙されたと思っ

て一度聴いていただきたい。

レポート〜ペットと純正律音楽  
こてもも日記こてもも日記  
純正律音楽でなごむ猫たち  
純正律音楽研究会監事  
田向正一

昨年夏、近所の道ばたで段ボール箱に入れられていた二匹の子猫たちを見つけました。一匹は黒白のぶち、もう一匹は真っ白い毛の色をしています。まだ生まれてからあまり日が経っていないらしく、足元がおぼつかない様子。しばらく考えて、この子猫たちを持ち帰り一緒に暮らすことにしました。二匹に名づけた名前は、第一印象からコテツとモモタ(通称こてもも)です。

初日は水も満足に飲まずに、じっとなりを潜めていましたが、少しずつ粉ミルクをなめるようになり、数日後にはすっかり元気を取り戻しました。オスの兄弟同士で仲睦まじく、遊び方もだんだん派手になり家中を大暴れする毎日。

そんないたずら好きのこてももも音を出すものは苦手のようです。掃除機やドライヤーを使ったり、テレビやラジオからぐわーんと音楽が鳴っているとき、さっさと物かげに隠れてしまいます。

そんなわけで、家の中の音楽はなるべくヘッドホンで聴くようにしていたのですが、たま

たまミネラルミュージック『聖夜』のCDを流していたところ、子猫たちは興味深そうにスピーカに近づき耳を傾けていました。二曲目の「朝日は昇りて(賛美歌九十七番)」は特にお気に入り入りのようでした。音楽を聴きながらお互いの毛づくろいを始めるなど、リラックステイしていました。

純正律音楽は、人間だけでなく動物たちにも癒し効果が高いだろうと以前からいわれていましたが、本当にその通りで、子猫たちを連れて初めて獣医さんを訪れたとき「拾い猫なのに柔和な性格ですね」と褒められました。これというのも、純正律音楽のおかげではないかと思っています。



お気に入りのCDを聴きながらご機嫌のコテツ(右)とモモタ(左)

純正律はペットにも好評? ペットが純正律を聴いたら喜んだ、という経験談を募集しております。800字程度で写真を添えて事務局までどしどしお寄せ下さい。

## 低温注意報

純正律音楽研究会理事

福田六花(医学博士 作曲家)

連続エッセイ 外科医のうたた寝 第十一話  
僕の住んでいる河口湖の冬はとても寒い。山梨県と云うと日本有数の猛暑都市である甲府が県庁所在地であるため暑い場所と云うイメージがあるようだが、富士五湖周囲はとても寒い場所である。なんといっても富士山の裾野であり、僕の住んでいるところも、働いている場所も標高八百メートルを越えるところに在る爽やかな夏が過ぎ、観光客が居なくなる十二月〜三月は河口湖の街は雪と氷に閉ざされて、人々は震えながら春を待つのである。  
日々の生活ではローカルな天気予報は欠かせない。明日は晴れ、最高気温マイナス二度、最低気温マイナス十四度、富士五湖地区全域に低温注意報発令中、などといった東京では決してお目に掛かることの出来ない天気予報に脅されて、ダウンジャケット、スキーズボン、スノーシューズに軍手とフル装備で出かける毎日である。



窓の外を見る。一度降った雪はなかなか溶けず(多分春まで)、どこまでも青く澄み切った空。銀色の雪をまとった富士山はまぶしく輝き、その美しさに息を飲み、一步外に出るとあまりの寒さに声も出ない。  
夜は暖を求めてガリガリに凍った道を居酒屋へ。凍てつく夜は鍋やシチューやおでんが嬉しい。昨日の焼鳥屋はとても美味しかったけど、古い店の建付けが悪く震えながら手羽先にかぶりついた。冬のあいだは沖繩に住みた

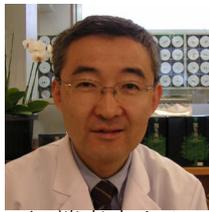
みんなを  
してあげ

漢方薬局

新風堂薬局  
河端孝幸

薬剤師 株式会社  
一ヶーション代

純正律音楽のCDは、関東を中心に店舗等での取扱が徐々に増え、自然食品や健康グッズのお店などにも広まっています。二〇〇四年十二月一日にオープンした漢方薬局「新風堂」(茨城県取手市)でも、純正律音楽のCDを販売していただいています。国内最大手漢方チェーンから独立され開業された河端さんに、純正律音楽が



河端孝幸さん

穏やかに流れる、きれいで明るい薬局にて、お話を伺いました。



ミュージックセラピーの棚には純正律音楽のCDが並ぶ

「新風堂は、漢方を主体にした相談薬局です。店内には、漢方はもちろん、ハーブ、健康食品、サプリメント、自然食品、アロマセラピー、そしてミュージックセラピーなど、厳選したよりすぐりの商品を多数揃えています。若い方からお年寄りまで、アレルギーに悩む方、自律神経失調症を患われている方など、様々な悩みを抱える方が相談にいらっしやいます。

病気が治る、そのための方法に漢方があるのですが、それだけではなく、いろんな要素が必要ですからそれらを全体的にフォローしていく必要があると考えています。音楽もその中のひとつです。

純正律音楽を知ったのは昨年十月の日本C1協会のシンポジウムで玉木さんの講演を聞いたのがきっかけでした。キーボード(ハーモニートレーナー)での和音の実演で、純正律は平均律とはつきり違うということがすぐにわかりました。自分自身、学生時代にトランペットを演奏していたこともあり、純正律がどういうものかがよくわかりました。また、学会でも発表されるということ、効果のあるものを提供できると思えました。オープンしてからの反応としては、同じく漢方に携わっている方が興味を持ったり、太極拳のグループの方が新しく取り入れたりされています。

新風堂が目指すのは「健康で明るく楽しい人生を送ってほしい」ということです。みんなを元気にしてあげたい、健康に悩む方の助けとなり、生活に新しい風を吹きこんであげたい。純正律音楽もそのための方法のひとつです。」

新風堂薬局は二〇〇五年には都内への店舗展開も予定とのこと。純正律音楽とともに健やかな暮らしのための新しい風を吹かせてくださることでしよう。



新風堂薬局取手店  
茨城県取手市西 2-2-3  
電話 0297-70-5561  
info@shinpudo.co.jp  
www.shinpudo.co.jp

- ◆純正律音楽CDの主な取扱店
- ・ナチュラルハウス青山店
- ・ナチュラルハウス吉祥寺店
- ・日本C1協会
- ・ドリームカタログ (WEB)

・楽天 OK MUSIC (WEB)  
◆全国流通も可能に

HMV、タワーレコード、新星堂など、全国の主要CD店にて一部の純正律音楽CDのお取り寄せが可能となります。ぜひご利用下さい。

【お取り寄せ可能な作品】

「ゆめ…くるみ割り人形ほか母と娘のデュオヴァイオリン(純正律による)」(以下は二月中旬より予定)「光の国へVOL. 1 歓喜の翼」「光の国へVOL. 2 旅の予感」「デュオで楽しむヴァイオリン小曲集」

※今後発売の新譜も予定。

※契約流通会社はラッツパックスレコード株式会社です。

【お願い】皆さんのご存じのCD店や健康雑貨店などで純正律音楽のCDを扱っていただけたら、ぜひご紹介ください。詳細は事務局までお問い合わせください。

◆純正律の着うたがスタート

株式会社「C1」が運営する「MOP」にて、純正律音楽の着うたがダウンロードできるようになります。この機会に純正律を携帯してみませんか。

【収録曲】光の国へVOL. 1 歓喜の翼より「マザーズボイス」「ケルト幻影」「燦(さん)」「響きの郷へより「大地の響き」「伝説」「草原抄」など(近日配信予定)「ゆめ…くるみ割り人形ほか」全曲(配信中・CD注文も携帯サイト

で可能)

【料金】

1曲につき六十三円)

【アクセス】

EZweb EZト

← ツップメニユー ← カテゴリで探す

← 着うた・着ムービー ← クラブ・

インディーズ ← MOP

※現在 au のみに対応

# 純正律

## イベントレポート

純正律音楽研究会関連の

イベントについて紹介します

■純正律による響きの体感ワークショップ 04年11月23日(祝)  
T Aスタジオ(東京都豊島区)  
報告 純正律音楽研究会監事

八木澤亨一

今回は、まず玉木宏樹氏とゲスト出演の母袋貴子さんによるヴァイオリンデュオで始まり、「こがねむし」「夕焼け小焼け」「二人のフィドラー」の演奏が順に披露されました。

続いて、本題である「きらきら星の実験」。日本でヴァイオリンを習い始めた人が大抵弾かされるという「きらきら星」を、希望者(第一ヴァイオリン)と玉木氏(第二ヴァイオリン)のデュオで奏する試みです。初めに母袋さん、その後ヴァイオリンを持参した参加者が一人ずつ玉木氏と組んで演奏したのですが、一般の参加者だけでなくプロ奏者の母袋さんでさえ、玉木氏から音程に関して指摘を受けていました。主旋律(第一ヴァイオリン)が(移動ドでいう)「ラ」や「ミ」に達し

たところで演奏を中断し、その音を引き伸ばしてみると、しばしばこれらの音が高過ぎハモリを妨げているのが判ります。そこでは耳を頼りにピッチの微調整を行ない、ハモる音程を探らなくてはなりません。因みに、完全五度が全てハモる「ピタゴラス音律」はメロディに適していると言われており、実際ソロの演奏をこの音程で行なうととても心地好く聞こえます。しかし、この音程をそのままデュオに持ち込むと三度や六度が正しくハモらず、大変耳障りな音になってしまいます。これらをハモらせる為には普通「ラ」や「ミ」や「シ」をかなり低くとする事になりますが、他方この和声的な音程は和音を含まないメロディの演奏には向きません。これらの異なる音程を正しく使い分ける為には日頃の練習の時から注意が要りそうです。なお、ヴォーカルでただ一人参加し玉木氏のヴァイオリンと組んだ山口尚己さんという女性は上手に出来ていました。私はリコーダーで少しだけ参加してみました。これが中々難しい。リコーダーは息の強さでピッチの微調整が出来



受講生とハモリの実験

ると言われますが、果たして上手くいったかどうか自分では全く確信が持てません。ヴァイオリンデュオによる実験としては、「きらきら星」の他「聖夜」と「家路」が一回ずつ演奏されました。

今回は三味線の受講者も多く、西潟昭子さんから「さわり」など三味線の響きについての説明があり、カンドコロの練習に一人ずつ「TANGOKU・AKIKO」の冒頭を弾きました。その後、低音を出し続ける「タンブール・マシ」和玉木氏のヴァイオリン、西潟昭子さんの三味線による合奏が披露されました。前夜に玉木氏が作ったというこの曲「アリアドネ」は、スローテンポで始まり途中から速くなるワンコードの曲で、とても心地好く聴く事が出来ました。最後には飛び入りで吉原佐知子さんのお箏の演奏もあり。約2時間、とても楽しく為になるひと時でした。

☆参加者のアンケートより

「初めて見学させて頂きましたが、たいへん楽しかったです。特にきらきら星をソロとハモるときの二つの音で聴き比べられたのがよかったです。私は去年までずっとピアノだったので、現在の日本の古い歌(ご詠歌)などにはまっています。音譜を読んでしまおうと、覚えているピアノの音で歌ってしまっていたのです(すぐ

く変です)。なおるといいなと思います。

去年まで某社のグループプレッスン(管楽器)を手伝っていました。そのときに純正律のことを知っていたら・・・と思います(ピアノではどうしようもないのですが)。今からでもグループの人達に先生のお話をできるだけ伝えたいと思います。ありがとうございました。

■土曜日のお茶会 純正律のクリスマス 04年12月18日(土)  
フレンズ(東京都港区)

満員御礼、熱気あふれる会場にて、玉木宏樹のバツハの無伴奏ヴァイオリンソナタで始まり、ヴァイオリンのご挨拶、初めてご来場の方のお名前で作曲する「お名前変奏曲」。

つづいて、ヴァイオリニスト、荒井章乃さんが登場。お母様の水野佐知香さんとのデュオ作品「ゆめ・くるみ割り人形ほか」も好評の章乃さん。数年前からアルバムをプロデュースしているものの玉木と章乃さんがデュオで演奏するのは今回が初めて。水野さん監修玉木編曲の楽譜「日本のメロディ」(音楽之友社より04年12月発売)より「荒城の月」「こいのぼり」「夕焼けやけ」「砂山」「浜千鳥」「証誠寺の狸囃子」「こがねむし」「お正月」などお馴染の懐かしい曲を演奏。しなやかで、時



玉木と章乃さんのヴァイオリンデュオ

に軽やかに、時に華やかに響く、美しいデュオでした。

次に介護老人保健施設施設長でもある福田八花さんが登場。老健施設で純正律音楽を流すと徘徊不穏が減ったというお話は参加者の多くの方が興味を持たれていました。ギターとヴォーカルとヴァイオリンで六花さんオリジナル曲「都祈野」「ホワイト・プレイヤー」を演奏。

そしてお待ちかねの邦楽篇、箏の吉原佐知子さんと玉木のデュオで「クロノスの彼方」、三味線の西潟昭子さんと玉木のデュオで「アリアドネ」。これらはワンコードでも単調ではなく、響きを活かせる純正律的な新曲です。三人で演奏の「いちめんの菜の花」は、後半で皆さんにも「菜の花」と声を出して参加していただきました。予定時間を過ぎつつ、最後には「きよしこの夜」を玉木と章乃さんのヴァイオリンデュオ、吉原さんのお箏とヴァイオリンのデュオ、ヴォーカリストの綾乃

ひびきさん、山口尚己さんとのデュオ、最後に全員で大合唱。盛り沢山のクリスマスでした。

#### ■小千谷市支援コンサート 05年1月28日(金)

セシオン杉並(東京都杉並区)

小千谷市学生寮がある杉並区にて、当会会員の宮本ルミ子さんの主催、杉並区等の後援で、小千谷市支援コンサートが開催されました。玉木もボランティアで参加しました。オペラ歌手の小川えみさん、マリンバの吉川雅夫さんにつづいて登場し、「歓喜の翼」を演奏。出身地神戸の震災の話、純正律の説明などをしてから、季節に合った「雪柳」を演奏、つづいてリベラやヒリヤード・アンサンブルなど純正律的な作品、国内では丸ビルで採用された純正律のチャイムなどを紹介、最後に「枯葉」を演奏。短い時間ながらも大好評で終演後には物販にお客様が殺到、CDは瞬く間に売り切れしました。当会で受け付けたチケット代全額及びCD売上の一부를義援金として寄付しました。